

# 地域資源活用実習における大学生の 関わりについて

山川 和彦

麗澤大学

**要旨** 麗澤大学山川ゼミは、枝幸町企画課、観光課、教育委員会社会教育課、オホーツクミュージアムえさし、北海道枝幸高等学校（以下枝幸高校とする）と連携して、枝幸町への若者の移住をテーマに連携活動を行った。本報告はその活動記録と同時に、今後の大学が地域と連携活動を行なう場合にいかなる点が重要になるかを改めて整理したものである。

**キーワード：**地域資源活用、移住体験、官学連携、探究活動、博物館

## 1. はじめに

麗澤大学山川ゼミは平成30年から枝幸町を訪問し、町と大学生との連携実習を行ってきた。そのテーマは令和元年（北海道東部地震発生のため途中で打ち切り）、2年、4年が大学生から見る枝幸の観光資源、5年、6年が移住体験の視点から枝幸町を考えるものであった。令和2年と4年の実習に関しては本誌においてすでに報告したので、今回は令和5年と6年に行った移住をテーマにした実習を整理し、その上でこれまでの連携実習から見えてくる活動のあり方や意義を考察することにした。

## 2. 移住志向の地域資源活用実習

コロナ禍でのオンライン授業や自宅勤務という新たな生活様式も定着し、また生活に対する価値観の多様性も進んで、活動地の選択の幅が広がっている。そこで、ワーケーションや一定期間地方で活動する地域おこし協力隊のような業務を想定

した「移住」をテーマとして、特に若い世代の枝幸での活動の可能性を探究することとした。

### 2.1 令和5年度

実習参加前に、麗澤大学の学生数名に移住を考える上で重要な要素はなにかアンケート調査を行った。それによると自然の豊かさ、アクティビティがキーワードとして上がってきた。そこで、枝幸滞在中は観光スポット、自然の豊かさを感じられるところの視察を行いつつ、町外からの移住者へのヒアリングや枝幸高校の生徒とのグループ討論により枝幸に関する理解を深め、新たな枝幸の魅力を発掘する活動となった。参加学生は実習体験をもとに、2泊3日のプチ移住体験プログラムを作成した。そこで参加学生は、プチ移住体験プログラムとして、市街地にある公共施設めぐり、小売店の品揃えの確認などを行なうと同時に、枝幸の観光資源についても訪問する提案をしている。活動記録は以下の通りである。

令和5年9月15日～20日

参加者：教員1名、学生7名（4年生5名、2年生2名、うちベトナム人2名）

9月16日（土）オホーツクミュージアムえさしの解説、市街地の公共施設、三笠山展望閣での聞き取り。神威岬公園、目梨泊遺跡、ウスタイベ千畳岩などの見学。

9月17日（日）弓ヶ浜にてビーチコーミング、枝幸港よりクルージング体験

歌登オムロシベツの森散策（在住外国人との交流活動）

9月18日（月）徳志別川でのサケの網上げ見学、イクラ作り体験

9月19日（火）町長訪問、町外出身職員とのワークショップ、枝幸高校「えさし探究」・高校生と大学生のグループ討論

## 2.2 令和6年度

令和5年に引き継いで、移住をテーマに活動をした。今回は若い世代が移住することを想定して、子育て支援、余暇活動拠点の一つとして総合体育館の視察を行なった。令和5年度の聞き取りが主として役場職員であったことから、今回は酪農に従事しつつ新たな活動を始めている方などにもお話を伺った。そして高校生に対しては事前に質問事項を共有し、高校生にとって日常と思われることでも、町外から来た者には新鮮に思われることなどを整理していった。

令和6年9月17日～22日

参加者：教員1名、学生6名（3年生5名、2年生1名）

9月18日（水）ミュージアム見学、移住者インタビュー：三笠山展望閣 鷺見道子さん、町内見学①（神威岬公園・目梨泊遺跡～千畳岩）

9月19日（木）移住者インタビュー：枝幸町子育てサポート拠点施設「にじの森」村山純子さん、町内見学②（弓ヶ浜～岡島海岸）、産業に関する聞き取り：酪農家 開地保さん、観光課 福田守課長補佐、教育委員会社会教育課 齋藤巧社会教育主事、移住者インタビュー③「シェアハウス・メ

イベル」湯澤萌さん、有吉里生さん、有吉悠子さん

9月20日（金）町内見学③（ケモナイ林道）、枝幸高校連携授業えさし探究+高校生と大学生のグループ討論、移住者インタビュー④枝幸町教育委員会 A L T レックスさん

9月21日（土）枝幸高校総合文化研究部との連携活動、町内見学④総合体育館、ホタテ殻むき体験

今回、学生が事後にまとめた報告書では、「ありのままがいい暮らし」というタイトルをつけている。滞在中にあった人たちが、かたちにとらわれず自分たちのしたことを実現しているという印象を得たことによる。そして生活者目線で視察したこと、体育館では高校生とバレーボールをするなど、通常の観光滞在とは違った経験が印象に残ったことが関係していると思われる。また、枝幸町が気になった人のために、チャート式移住パターンを提示した。その中には、キーワードとして自然、コミュニティの存在という概念が取り上げられている。都心部では失われたり、希薄になっていることが、枝幸町では再認識されると感じたと言えよう。

## 3. 枝幸高校との連携授業

枝幸高校では、1年生向けに「えさし探究」授業が行なわれている。枝幸町では大学生と交流することが少ないので、この地域連携実習を活用して高校生と大学生の交流活動を行なっている。

令和5年度の活動

筆者山川が「ふるさとを見つめなおす」という講話を行なったあとで、高校生が考えている枝幸の観光資源等についてグループ討論が行なわれた。

令和6年の活動

前年同様山川が「地域資源と観光」と題して、今日の観光が滞在型になり自分のストーリーを作っていることに触れ、観光資源と思われるものが変わってきていることの講話を行なった。そのあとで、高校生と学生が6グループに分かれ、討論を行なった。テーマとしては高校生が感じて

いる枝幸町の魅力と日常生活についてである。高校生には事前にアンケートを行なっていたので、大学生はそのデータをもとに、グループディスカッションを行なった。

令和6年度は、総合文化研究部とも活動を行なった。総合文化研究部の本年度のテーマである「オホーツク文化の漁業資源利用」に関する研究成果をもとに、当時の生活者たちが食していたと推定されるカジカを使用した鍋を試作した。現在のような調味料は存在しないことから、味付けは塩だけを使用した。併せて麗澤大学生は、枝幸の代表的な漁獲物がホタテであることから、ホタテの貝ヒモを使用したジンジャエールを考案した。

#### 4. 連携活動の課題・ノウハウ

令和元年から枝幸町と麗澤大学生との連携実習を行っているが、筆者はこれまでの活動から、大学生の学外実習を、地域にとっても大学生にとっても意義深いものにするにはいくつかの要素があると感じている。そもそも地域には地理的、歴史的経緯などもあってすべてに通じる万能薬のような施策はないが、今後活動を継承していくことの意味を込めて、改めて活動のキーポイントを整理しておきたい。

##### ① 窓口の確保

地域と大学という二つの組織が関わる業務になるので、双方の窓口になる人物のやりとりが円滑に行われることが最重要事項である。今回の場合は、オホーツクミュージアムえさしの高島孝宗館長と麗澤大学山川がこの役割を担っている。ここの信頼関係を確保するためには、頻繁に訪問したり連絡したりすることが前提にあると考えている。

##### ② 事前学習と問題提起

地理や歴史、人口や産業などは基本情報として学習しておくことが求められる。その上で実習が何を目的とするのか、そのために何をしたらいいのか、事後学習やフィードバックまで含めて全体の流れを、参加者全員が共有しておく。特に集中講義形式の活動になると、学生が全員そろって事前準備を行うことが難

しくなる。

また、訪問時の撮影、聞き取りでは人権配慮など研究倫理の観点から注意すべきことなどを、全員で確認しておく必要がある。

##### ③ チームビルディング

学生を束ねて役割分担を行える、連絡が速やかに取れる状況を作り上げておく。全員が同一の専攻であるとか同一授業を取っている場合は問題がないが、様々な専攻から集まってくると、チームワークを組むのにかかなりのエネルギーを費やすことになる。ここがきちんとしてできると、活動が円滑になることは間違いないが、仲良しクラブではない学術的な意識向上にも留意しなければならない。

##### ④ 学生の責任ある行動と活動日程の遵守

調査活動の合宿はグループ旅行とは違うという点を明確に指導しておく。禁酒にするのも効果的である。限られた日程で活動すること、地域の人々の理解の上で活動が成り立っていることを理解させる。

##### ⑤ 責任ある活動

法令遵守はもちろん、地域にあるしきたりや習慣を尊重する必要がある。窓口になるコーディネーターの指示に従う。

##### ⑥ 日々の活動と整理

近年の学生はメモを取ることをしない。フィールドでしか得られない情報や聞き取り内容のメモを取らせる。そのためには朝の活動確認、夜の活動の整理を行うことが重要である。特に、聞き忘れたことを翌日確認するために夜の確認は重要である。また、現地では閲覧が容易である史料などを参照することも活動計画のなかに入れておく。

##### ⑦ 宿泊の問題

滞在中の自炊をする場合は、準備などに時間を取られるために、活動をまとめる時間が制約される。さらに、情報をPCで整理し共有ファイルを作る場合には、ネット環境が求められる。うたのぼりグリーンパークのコテージでは、ネット環境がないことから、ルーターを持参する必要もある。

- ⑧ 事後活動・活動報告・フィードバック  
 活動を通して得られた情報の整理、報告書として作成していく時には、当初立案した活動目的との整合性を意識していく必要がある。また、資金的な支援を得ている場合には活動報告書をきちんと作成すること、まとめ上げたものをフィードバックする必要もある。事後活動になると、参加者それぞれが自分の日常に戻ってしまうので、活動に参加しない学生が出てこないように、指導していく必要がある。
- ⑨ 活動の安全性確保  
 連携活動においては、参加者の安全性確保を最優先とする。特に運転経験の少ない学生によるレンタカー使用は最小限にする。そしてハラスメントが生じないように状況確認や聞き取り相手の個人情報の保護も確保しなければならない。

**付記**

今年の活動においても、オホーツクミュージアムえさしの高島孝宗館長をはじめ、枝幸町の皆さんのお世話になりました。また活動記録は、レ・ホアン・キム・ガンさんが素晴らしい映像記録を毎年作成してくれています。厚く御礼申し上げます。



子育てサポート拠点施設「にじの森」見学



博物館「オホーツクミュージアムえさし」見学



実習生の町長訪問（令和6年度）



枝幸町観光協会での観光について学ぶ